



すがい くみ

一九一九年神戸市生まれ。一九五二年渡仏。パリ・ニューヨーク・ミラノ・ハンブルグ・東京・京都など世界各地で個展。ヴェニス・ビエンナーレ展、サンパウロ・ビエンナーレ展など多くの国際展で受賞。パリ近代美術館、ニューヨーク近代美術館、ローマ国立近代美術館、ベルリン国立美術館、東京国立近代美術館など世界各国50数ヶ所の美術館に作品がコレクションされている。

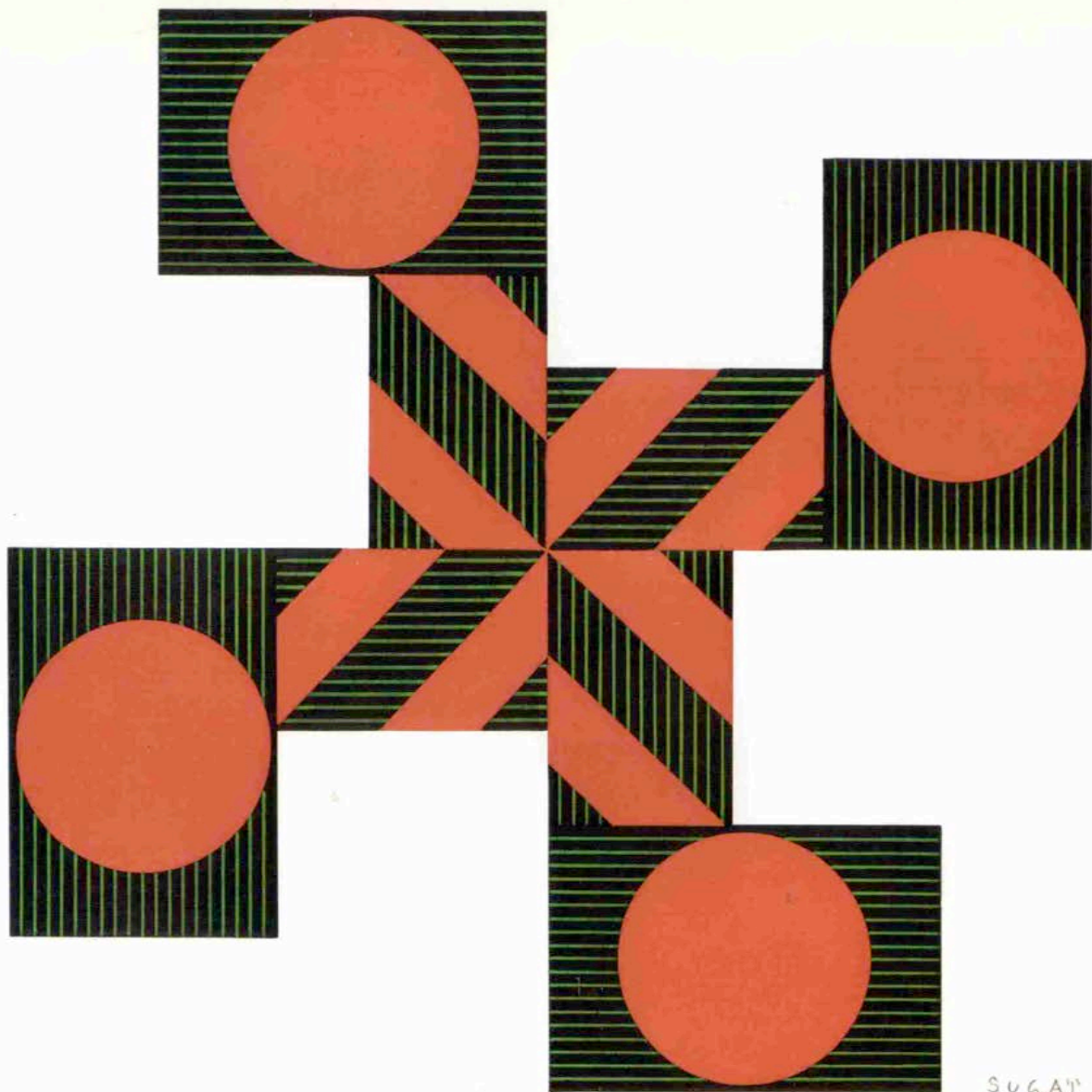
# イメージの神戸

⑮ 菅井 汲 〔洋画〕

一九五二年に渡仏して以来二十数年のヨーロッパ生活でいつの間にか、自分の生れ故郷は一地方都市としての神戸（御影）ではなく日本という国を自分の郷里として生きてきた。

今、神戸市の東端（東灘区）に滞在していても、この地区で自分が生れ育ったのだという実感はあまりない。それよりも当然なことだが日常生活で日本語が快適に通じるということなどで自分の国にいるという安心感がある。

神戸は外国船の出入が多いから国際都市だというのではなく文化的にも情報社会との交流をもっとさかんにして、海、山、光の自然環境に恵まれた独自の特色を持った若さにあふれた今日的な『国際都市K O B E』として発展してほしい。



SUGAR

# 神戸のディテール

Detail of KOBE 〈60〉

石坂 春生

写真／杉尾友士郎







水平線の彼方よりメッセージ



英国製著名メーカー（仕立券付）13万円より  
英国製ドーメル社（仕立券付）15万円より

創業明治十六年

**金 柴田音吉洋服店**

神戸・元町4丁目南 TEL (078)341-0693

大阪・高麗橋2丁目 TEL (06)231-2106



ホラ、夏が…

きれいな夏——ウインザー



オートフチュール & フティック  
**Windsor**

〒650 神戸市生田区三宮町1丁目さんプラザ2F  
PHONE 078(331)7952

# 葉脈の音色は。



休息の午後。

緑の扇から白い光の

エチュードが...

英国調のスーツに加え

カジュアルなバステル色

のヨーロッパ調を

おとどけます。

'78 WATANABE SUMMER COLLECTION

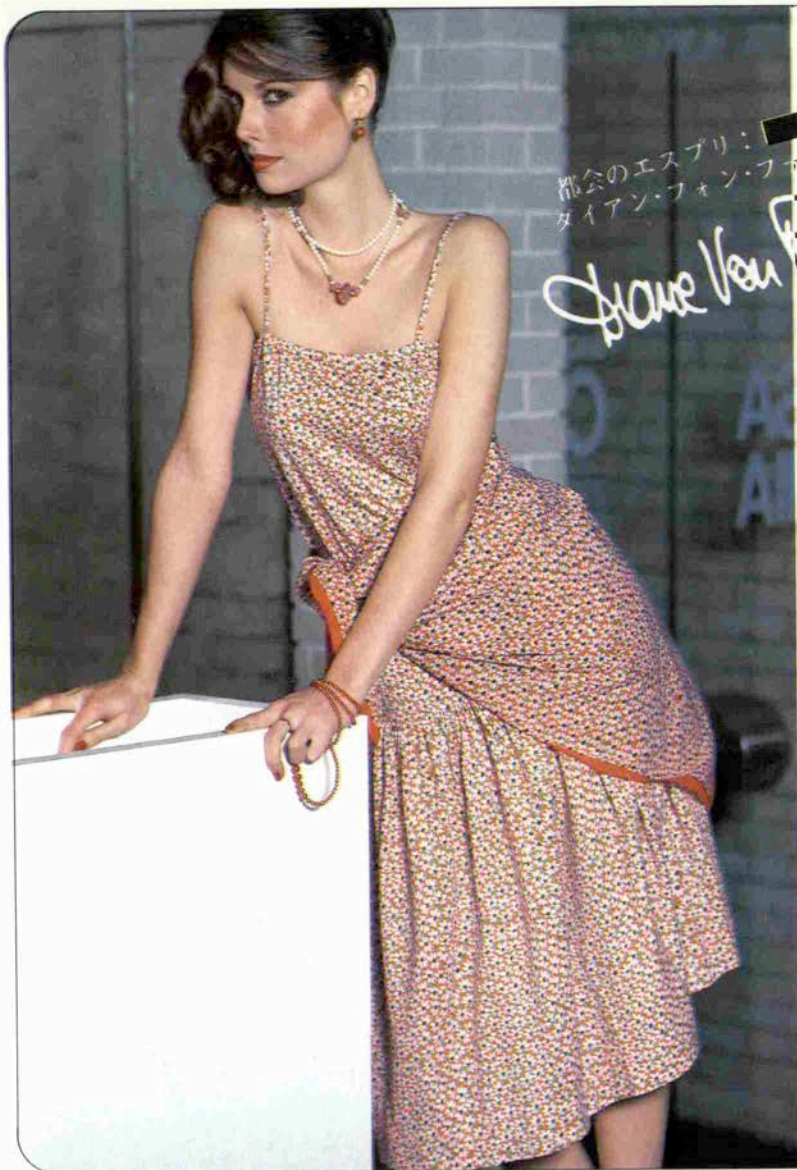


洋服・袴 渡邊

神戸店：神戸市灘区磯上通8-1-32グリーンビル ☎ (078) 251-8501 代 ☎ 651

東京 ・ 大阪 ・ 神戸 ・ 姫路





都会のエスプリ：  
ダイヤモンド・ファーステンバーク

*Stone Van Furstenberg*

いま熱い視線：  
ニューヨークファッション

女性が美しくなる  
ために、時間をか  
けずにしかも求め  
やすいというダイアン女  
史の哲学から生まれたファッションは  
軽い素材によるイージーなシルエット  
が特長。シンプルで しかも 女らしい  
やさしさは ムラタが 神戸の女性に  
お勧めする この夏の装いです。  
コットンボイルスカーフ付サンドレス



真珠・貴金属  
毛皮・婦人服

**ムラタ**

さんちかレディスタウン

(神戸市生田区三宮町1丁目1)

☎ (078) 391-3886

本 社

(神戸市生田区元町通6丁目35の2明邦ビル)

☎ (078) 341-8041





# No.1 エンバ

## 確かな品質で、信頼の輪を広げています。

デンマーク、ロンドン、フィンランド、世界各地の毛皮のオークション場から、厳しい目で選び直輸入する最高級品質のエンバの毛皮。この高級素材をエンバの伝統技術とセンスで入念に仕上げ、欧米と変わらないお値段段でお届けしています。日本一多くの支店、日本一多くのファンをもち毛皮ブティックNo.1の名を不動のものにしています。すべての商品は鑑定書つき、もちろんアフターサービスも万全です。20回払いまであるローンもご利用ください。

社団法人・日本原毛協会会員  
価値と価格を保証する直製造・直販売エンバ。



毛皮 **エンバ**



神戸店／神戸市生田区下山手通り3の44  
西田ビル1F ☎078(331)6214  
芦屋店／芦屋市船戸町2の21国鉄芦屋  
駅山側 ☎0797(31)3329



これは神戸を愛する人々の雑誌です  
あなたのくらしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の手帖です

表紙 / 小磯良平

セカンドカバー-西村 功「僕の見たバリ・その6」

9 神戸っ子78 / 中畑佳子 / 堀尾貞治

13 ある集い / K. F. K. (神戸婦人子供服小売商組合)

15 コウベスナップ

16 イメージの神戸(15) / 菅井 汲

18 神戸のディテール(60) / 石阪春生 / カメラ・杉尾友士郎

29 私の意見 / 武衛晴雄

31 随想 / 慶家正子 / 岩田弘之 / 黒崎 勇

34 ある集いその足あと / K. F. K. 坂野通夫

36 私の交友録(1) / 足立巻一

38 神戸商船大学と神戸(4) / 南 正巳

41 技術ジャーナル(128) / 諸岡博照

42 ビッグ対談 / 「文化化」の時代へいかに対応するか

梅棹忠夫 VS 藤 純臣

50 キャンペーン・国際文化都市神戸を考える(8)

国際的なコンベンション・シティづくり

柏井健一 / 鬼塚喜八郎 / 木口衛 / 中内力 / 諸岡博照

57 経済ポケットジャーナル

## 特集 六甲山ハイキング

58 芦屋川〜ロックガーデン〜保久良神社 / 松岡寛一

60 アイスロード〜ダイヤモンドポイント〜地蔵谷西尾根〜大池 / 嶋田勝次

62 天狗塚〜記念碑台〜石切道 / 諸岡博照

64 布引〜地蔵谷〜山寺屋根 / 大西雄一

66 菊水山〜鍋蓋山〜徳川道〜摩耶山 / 森本泰好

68 須磨浦〜鉢伏山〜高塚山〜太山寺 / 原 清美

72 かわいそうなアリス(18) / 岡田 淳

74 話題のひろば 1 県造園芸芸組合20周年 2 神戸 JC 20周年

76 KOBE FASHION SPOT

82 アンド&神戸 / 前橋汀子(バイオリニスト)

86 NEUE MODE MARCHEN(6) / 篠原順子

113 神戸の僅し物ご案内(6月)

114 ノコの華麗なる挑戦 / 専任救助隊員入門 / 小山乃里子

118 動物園飼育日記(142) / 亀井一成

123 神戸の集いから

126 神戸を福祉の町に(54) / 橋本 明

128 ファッションレポート / 畑田浩作 / 馬場 薫

133 KFSニュース

134 すいそう・イタリア便り / 武谷なおみ

136 私の映画手帖(6) / 淀川長治

138 女性百景(70) / 細川 薫

140 ぴつといん

143 神戸百店会だより

144 ポケットジャーナル

148 連載小説 純捨て(6)(第二回神戸文学賞受賞作品)

奥野忠昭 / え・犬童 徹

154 連載小説 生活(6)(第二回神戸文学賞受賞作品) 吉峰正人 / え・榎 忠

159 トラベルコーナー・TALK & TALK

174 アルファベットアベニュー「O」 / 新井 満・石阪春生

176 海船港 / ソ連船「マキシム・ゴーリキ号」初入港

カメラ・米田定蔵 / 藤原保之 / 橋本英男 / 刃金和男 / 速水 亨 / 吉岡和代



KC  
M

Happy Ceremony



お見合、結婚披露宴  
誕生パーティー……

ご宴会料理 お1人様 ¥3,000より

ご婚礼料理 お1人様 ¥5,000より

※グループの会合に最適の個室もご用意しております。

駐 車 場 有  
年 中 無 休

ナイトクラブ・レストラン  
神 戸 **北野 クラブ**

神戸市生田区北野町1丁目64  
TEL (078) 231-2251

レストラン  
神 戸 **ブラン ドゥ ブラン**

神戸市生田区京町77-1 神栄ビル7F  
TEL (078) 321-1455

東 京 **ストックホルム**

東京都港区六本木6-11-9スウェーデンセンター  
TEL (03) 403-9046

本当の夏と出会うのは、街を出た日だ。



FASHION PARK

トータルコーディネートファッション

●LIZA SALON

アクセサリ・内外雑貨

●ルイ・ミッシェル

ジーンズショップ

●AOYAMA EIKO

COLLEGE SHOP

●CABIN

バリ・ナウファッション

●フランス・アンドルヴィ

バリ・ナウファッション

●ジョージ・レッシュ

東京銀座・婦人靴

●ダイアナ

舶来靴専門店

●Pia

ヤング&アダルトファッション

●ルベール

ヤングアダルトファッション

●ランプ

ファッションバッグ・アクセサリ

●美呂

原宿・婦人服

●CAN

銀座・婦人服

●ゲルラン

婦人服飾

●東京屋

新宿・レディスファッション

●高野

おしゃれな靴の店

●BON フカヤ

コンテンポラリーファッション

●ザ・コレクション

東京ギンザ・レディスファッション

●三愛

神戸・三宮

さんプラザ・センタープラザ

3F





## IN RESORT TIME

潮の香が、陽光が、  
活動の季節を知らせてくる。  
男の余裕の時間には  
リラックスした装いがよく似合う。



世界のオシャレをお届けする

ウネ  
KOBE UNE

本店・神戸元町1番街・078-331-3112  
別室・元町1丁目(穴門筋)・078-332-2800  
東急百貨店・渋谷店・日本橋店・札幌店・吉祥寺店

☆私の意見

# 自然体験の場

## としての六甲山

武衛 晴雄

〈神戸市市民局長〉



蝶の幼虫が六本の手（実はあし）で食物をささえてそれを食べている。ちようどすわったリスが、前あしでドングリをつかんで食べるしぐさにそっくりである。その食べ物が、幼虫が先ほどぬぎすてたばかりの自分の殻であったことは、私にとって新しいできごとであった。

アゲハチョウの蛹には緑色のものと褐色のものとがある。幼虫の食草であるミカンの枝で蛹になったものは葉と同じ緑である。軒下や塀に場所をきめた蛹は、褐色の保護色である。教科書にもこのように書いてある。アゲハの幼虫はどのようにして環境に応じた色を選ぶのか。ある学者が実験をしている。ミカンの葉をどろどろにして、枯枝にぬりつけた。この枯枝で蛹になったものは、環境が褐色なのに緑色であった。そこでミカンの液が発散するにおいが、幼虫の神経を刺激すると緑色になると説明がなされた。

私は室内で、終齢に達した幼虫に好きな所で蛹になれるよう自由に歩かせてみた。結果は本が教えてくれたようにはならなかった。ステレオの裏と天井の蛹が鮮かな緑だったのである。

私はこうして自然のごく小さな部分に接して、自分のぬけ殻を食べてしまう幼虫のことや、本が教えてくれる知識には例外があるということを教えられたのである。蝶の精緻を極めたハネに神秘を感じ、その生活のふしぎさに驚くたびに、自然は偉大さを増し、私は自然の前に謙虚になる。そして私の前の小自然は教師であるとともに、心に豊かさを与えてくれるのである。

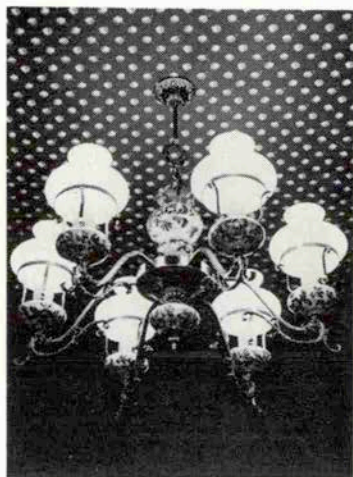
週休二日制の普及はいま足踏み状態だが、将来自由時間が増えることは確実である。学校の教育課程にゆとりをもたせる改訂もすすんでいる。自由時間をたくみに活用することを、人間としての成長のために真剣に考えなければならぬ時である。

神戸に六甲山がある。自然体験が身近でできる市民の大きな財産である。活用してソフト面のまちづくりに役立てたいと思う。



# 心の通う店創り

KOBE  
NIKKEN



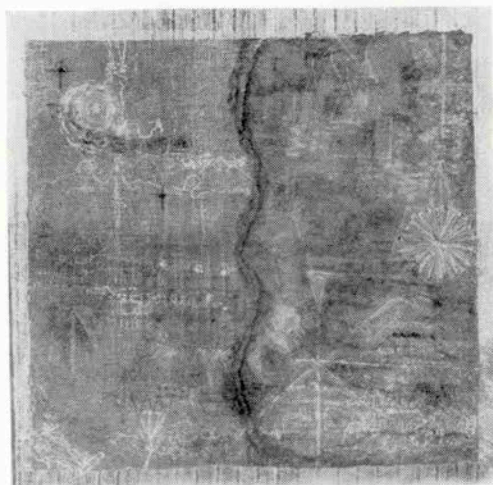
店舗装備のプロフェッショナル  
(株) 神戸日建

本 社 神戸市灘合区御幸通3丁目2-20  
〒 651 ☎ (078) 251-3525 (代)  
東 京 東京都中央区日本橋3丁目2-17  
営業所 ☎ (03) 278-1369



三宮阪急南側 COFFEE SHOP「パスワード」

# 随 想



カット／中畑佳子

## 神戸 慕情

慶家 正子

△ピアノ講師△



おさえにおさえていました気持ち  
とうとうどうしようもおさえきれ  
ず、ペンをとります。

「風見鶏」の時間は、私が思いっ  
切り声をあげて泣くとき。どうし

ても涙が出てとまらないのです。

終戦まじかの疎開さわぎで、こ  
の北陸の地へ、十九才。結婚――

……銀婚式もおわり、こどもたち  
(息子)も独立の三十男。「孫も  
ちのおばあちゃん」になり下って  
も忘れ得ぬ故郷

――神戸

鳥原の水源地の水で産湯をつかい  
あの方の家、この友の家、

石段をのぼって、それも50段、30  
段と

坂のある街、昭和のはじめの諏訪  
山の動物園、再度山へのハイキン  
グ、布引の滝、六甲からみおろす  
市内の夜景百万弗。

海には船、船、そして気笛。  
あーあ、どうして戦争なんかあ  
ったの？

疎開「そかい」という言葉、いま  
の人知ってる？

一家をあげてのこの北の国でのあ  
けくれ……

「風見鶏」をみていると……  
あちこちの地名が出てくると  
もうダメ。

言葉(神戸なまり)の中に流れる  
人情味。

これ迄、おさえにおさえていた何  
十年かの辛抱がおじやん。

何のために？と思ひ出すとやもた  
てもたまりません。

これはそこに生れ、そこで育ち、  
そこで乙女時代を過ごしたものでな  
いと分りつこありませんもの！

生れ育った神戸っ子の  
あけっぴろげなお人好しの

人間関係で(この裏日本では通用  
しない)どれだけ苦い味をかみし  
めたことか。

人生五十より(ハーフ)

昭和年号才の私にとって  
第二の人生、もう一度神戸にもど  
りたい。

そこで老人ホームで

のんびりと老後を過したい。  
士になりたい。

もちろん 私一人で。



五才の時、五百円のピアノ、五円の月謝。神戸市湊区五ノ宮町一〇五番、楠幼稚園。煉瓦塀の家。平野小学校。五郎池。神戸市立第一高女、五年卒業。「五」のニュアンス、大好きです。

失礼なことばかりしたためましてお許し下さいませ。もう思いつくまま心のあるだけ記しました。未知の方ばかりのスタッフの方達はさぞかし「少女趣味の甘っちょろいばあさん」と、お笑いのことも承知で……。

たべもの有、衣るもの有、住居有、スーブのさめないところに息子達夫婦。二男も一人立ち。何もすることなくて、主人との絵に描いたような二人だけの生活。ピアノのレッスンがたのしみの幸福な中年女。

クイーン・エリザベス

## Q E II の

## 優雅な日々

岩田 弘之

△辨ロックフィールド・レストランブック  
代表取締役

三月二十二日私達夫婦は、ホテルへの七日間の船旅に出るべくたそがれせまる横浜港を静かに離れていった。過去いく度となく耳にした「蜃の光」に送られ岩壁を

離れるとき船旅独特のロマンティックな愁いにかられた。と同時にしばらくの間、子供達、仕事から解放される不安と、寂しさを感じながらも、スケジュールに追われ電話のベルに追いつてられる生活から解放されると思うと、この船旅をエンジョイし、心と身体の洗濯をしようとした希望が湧いて来た。

一瞬の寂寥からさめ、Q E IIでのまず初めのアタックは「晩さんのメニューは……」と夢をはせながらプリンセスレストランのテール(Q E IIに、レストランは四つあり、乗客のランクにより区別されている。我々は神戸フックのお客様でもあるキャプテン、アーノットの好意でこのレストランに席をいただいた)へ。豊富にそろえられた食前酒にはじまり、デザート、ドリンクに至るまで、夜のふけるのも、船上であるのも忘



Q E IIにてアーノットキャプテンと岩田夫妻

れる四時間余りの食事は、日頃の生活では決して味わうことが出来ない、優雅なものであった。毎夜催されるパーティーには、船長主催カクテルパーティー、ディナーパーティー、一等機関士主催のカクテルパーティー、ホテルマネージャー主催のパーティーと、タキシードにイブニングドレスで毎夜、華々しいご招待をうけました。その都度、素晴らしいワインと料理を味わい、料理の世界で、働く我々にとっては、驚嘆の連続でした。

シェフのご招待で、調理場、冷蔵庫、酒蔵等々案内してもらい、余りの大きさに、あらたにQ E IIの大きさを知りました。ちなみに女王の持つ主たる食料品は牛肉二万五千ポンド余、卵八千個余、酒類五万本、特にワインの豊富さには定評があります。またメニューの豊かなこと、世界の珍味を集めた贅沢さ、特にストラスブルグ産フォアグライラン産キャビア(シェフによると世界のキャビア生産の6割をQ E IIは消費)フランス産のワイン、シャンパンの素晴らしさは、ただただ驚くのみ……。

好奇心旺盛な私達は、日頃乗物に弱いのもどこへやら、せっかくのチャンスを見逃さないでとせっせと動きまわり、Q E IIが単調な海の旅をあきることなく過せるようあらゆる娯楽施設を持ち、趣

向を凝らし配慮されているのには長い歴史を感じさせられた。

今回の旅は、時間に追われ、あたふたと過ぎた短い七日間の船旅であったが、のんびりと船旅を楽しんでいる諸外国の人々を眼のあたりに見、いつの日か再び乗船する時には余裕を持ち、サンデッキで日光浴を楽しみのんびりと旅をしたいものだ。海の女王の豪華さ、すばらしさはいろいろと伝えられているが、本当の良さすばらしさは百聞にしかず、一度乗船してみることです。

機会があればぜひ、ご夫婦で。

## 神戸とドイツ人

黒崎 勇

△甲南大学文学部教授△



現在、神戸に五百人近くのドイツ人が住んでいるとのことである私が知っているのはそのごく一部分で、大部分のドイツ人とは面識がない。しかし、私を受ける印象では、彼等は神戸の生活にとけ込んでいようだ。神戸に永住を決意している人が多勢いるのは、そ

の何よりの証拠となろう。神戸を離れて行く知人達も「神戸は私の第二の故郷です」という言葉を残して帰国する。それでいて、彼等は日本人の生活様式に順応しているわけではない。秩序と規律を重んじ、主義・主張を頑固に貫き通すドイツの生活態度を忘れない。それが出来るのも、神戸という町そしてその神戸に住む人々が、彼等を認め、暖かく受け入れているからに他ならない。

私の恩師ユーバーシャル先生も頑固なドイツ人の一人であった。

先生は今、再度山の外人墓地で安らかに眠っておられるが、生前の先生は実に厳しかった。思いついたことはすぐ実行に移し、相手の間違いに対しては情け容赦なく批判し、決して妥協をしない人であった。このユーバーシャル先生を訪ね、再度山に墓参を始めて早くも十三年が経過している。亡くなられたのが冬の最中であつたこともあって、初めは先生の誕生日である三月四日を墓参の日と決めていたが、数年前より、四月に入ってからお訪ねすることになっている。

私は、墓参の度に先生の大好物、というよりも主食であつたビールをお供えすることを務めとし、初春の日光を受けて適度に暖まった立派な墓石にビールを注ぐ。何とも言えない芳香があたり立ちこめ

そしてその中に私は先生を見る。

国際会議館地下の食堂「ニューコーベ」の一番奥の席に一人陣取り——正に陣取って——ビールを飲んでいる先生。デリカテッセンでスモークサーモンやハムを買って来て、食堂では皿とナイフ、フォークだけを注文する大胆不敵な先生。時には先客が座っていたのにその客を追い出して、自分の席を確保することさえあった。マネージャーの野木さんにはどれほど御迷惑をお掛けしたことか。しかしこれもドイツ人には別に奇異なことではないのだ。ドイツのレストランには毎日やって来て、ビール一杯で何時間もじつと座っている老人が居る。この常連の座る席には他の客は誰も座れない。店にとっては決して得になる客でないのに、店の者はみなこの客を一番丁重に扱う。ユーバーシャル先生も恐らくこのような常連を気取っていたのであろう。

昨春、戦後初めての本格的ドイツレストランが山本通りローズガーデンビル二階にオープンした。

「ハイデルベルク」という。オーナーのペーター・グルーベが私の親友である関係上、ときどきアドヴァイスを与えている。若い女性客の多いレストランではあるが、年老いたエトランジェの憩い場でもあってほしいと思う。